

「この人 108」

池田亮二 東京都

編集部 その日のニュースを、絵と五七五のコメントで描いた「楽画句」を毎日、発信しておられますが、滑稽俳句を始められたきっかけは？

池 田 俳句など縁のなかった大学の先生やら出版の人やらが句会をやろうと言い出し、季語も句形もいい加減なまま、不風流、わい雑な互いの句をけなしあったのが、俳句の原点です。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

池 田 常識をこえた自由な空間で遊べることでしょうか。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

池 田 人間は、賢くて愚かです。そのズレとアンバランスが可笑しさを生みます。芭蕉の句でいえば「面白うてやがて悲しき鵜舟哉」ですね。

編集部 滑稽俳句を続けて良かった事は？

池 田 日常の煩わしさを忘れられることです。ひょっとしたら、アベシンゾー氏やトランプ氏の道化ぶりを楽しむこともできるかも…。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

池 田 よくわかりません。其角の「ぬがでばや千手観音衣がへ」のような奇想天外に遊ぶことでしょうか。

【代表句】

如何なる佳人の生れ変りか庭の蝦蟇
月の砂漠星ばらばらに星条旗
銀杏散る銀座で老いて靴磨き
豊乳肥臀惚れ直したかと衣更え
神楽かつぐフランス男の尻白し